



—昭和大学歯科病院の理念—

患者本位の医療
先進医療の推進
良き歯科医師の育成

発行責任者 病院長 岡野 友宏
編集責任者 広報委員長 高橋 浩二
〒145-8515 東京都大田区北千束2-1-1
TEL 03-3787-1151(代表)

ホームページ: <http://www10.showa-u.ac.jp/~denthp/index.html>

歯医者さんはお好きですか？

総合歯科 科長 佐野 晴男

歯医者さんはお好きですか？と聞かれて、にっこり「はいっ！」とお答えになる方は少ないと思います。歯を削るときの痛みや振動、ピーツという音などが原因で、余程のマゾヒストを除き、歯医者さんは嫌われ者です。このため、治療が必要だと思っても歯科医院の門をくぐるのが遅れてしまい、残せる歯も抜かざるを得なくなってしまうこととなります。

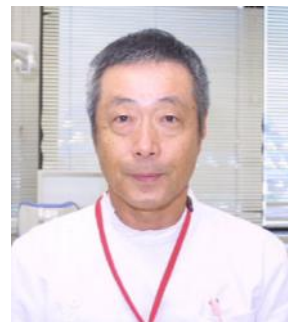
もしも歯科治療が痛くなく、しかも快適なものだったら、もう少し積極的に歯科に足が向きますか？私が主宰する総合歯科では、毎日少なくとも2、3人が快適に治療をお受けになっています。このウソみたいな方法は静脈内鎮静法といいます。私は歯科医になって30年以上、普通の歯科医院では対応できない歯科治療恐怖症の患者さんを治療して参りました。歯科治療が嫌いだ、というレベルでなく病的に受け付けない方が世の中には少なくないのです。待合室にいるときから冷や汗が出て、心臓が早鐘のようにどきどきと打っている人。歯の型を採るときにこみ上げて嘔吐しそうになり、精密な治療を受けられない人。歯茎に麻酔注射を打たれて気を失ってしまって以来、歯科を受診できなくなった方、等々。私が手がけている患者さんの中には、道を歩いていて歯医者さんの看板を見た途端、足がすくんでしまい、しばらくうずくまって動けなかった方もいらっしゃいます。北海道から飛行機で、山形から新幹線でいらっしゃる方までいます。

それではそのような方々をどうやって、辛くなく快適に治療するのでしょうか？治療台に座っていただいたら、まず点滴をとります。歯茎への注射には耐えられない方も、腕の点滴注射は我慢し

て下さいます。点滴の経路から鎮静剤を注入しますと、ものの1分ほどで薬が効き始め、その後の記憶が抜けるのです。たとえばいうと、お酒が好きな人が飲み過ぎて大暴れした翌日、酔っていた間の言動を覚えていないようなものです。治療中の記憶が抜けるのです。全身麻酔のように治療前にいろいろな検査は必要ありませんし、意識を失うわけではありませんので安全です。治療が終わり鎮静剤の効力が薄れてくると、皆さん異口同音に「こんなに楽な方法があったのか！。もっと早く知っていればよかった。」とおっしゃいます。「二度と嫌だ」と言った人は皆無です。長時間かかる難しい親知らずの抜歯の際等にも取り入れて喜ばれています。私も何度も試したことがあり、自身で身をもって良い方法だと確信した上でお勧めしています。

この頃では胃カメラの検査を快適に受けられるよう、この方法が医科でも取り入れられてきましたが、痛みと闘う歯科では30年以上も前から行われてきた歴史ある方法なのです。本項をお読みになって静脈内鎮静法下の治療について、さらに詳しい説明をお受けになりたい方は、ご遠慮なく受付にお申し出下さい。

当科ではこのほか、重い心臓病や糖尿病、脳梗塞、抗血栓薬(血液がさらさらになる薬)服用中などの理由で、歯科医院では対応が困難な方々を安全に快適に治療しています。ご自身やご家族にこのような方々がいらっしゃいましたら、是非とも一度ご相談下さい。



歯科麻酔科 紹介

歯科の麻酔？と思われる患者さんも多いと思います。実際に、歯科の診療用のユニットに患者さんを並べて、次々に注射(局所麻酔)を口腔内に刺していくイメージだと言われることもあります。実際には、歯科麻酔科は、患者さんが安心して歯科治療を受けてもらうための安全管理が主な役割です。

全身麻酔を例に挙げて説明します。あごを骨折した、口腔内に腫瘍が出来た、あるいは、障害者の歯科治療など、局所麻酔だけでは安全が確保できない場合には、歯科でも全身麻酔を行ないます。ここで、歯科麻酔科の登場です。全身麻酔で治療を行いたい、口腔外科医や障害者歯科医に依頼を受けて、歯科麻酔医が患者さんの安全性を評価し、手術室で全身麻酔による管理を行ない、執刀医が手術を行います。

一般歯科治療での活躍の場も、患者さんの安全管理です。血圧の高い患者さんの歯科治療、半身不随の患者さんの歯科治療、深く横を向いた親知らずの抜歯など、局所麻酔で治療出来るけれども、血圧が心配だったり、治療時動くのが心配だったり、患者さんの不安が強いなどの場合、担当医から依頼を受けて、血圧や心電図の管理から、鎮静法(点滴から鎮

静薬を投与して、不安を軽減する方法です。笑気を使うときもあります。)による不安感の軽減まで、多岐にわたる、広い意味での患者さんの安全管理を行っています。

患者さんの安全管理には、情報収集が欠かせません。担当医から依頼を受けますと、処置前に患者さんにお会いして、患者さんの全身状態、既往歴、常用薬、アレルギーの有無など、事細かにお聞きします。面倒でも患者さんの安全のためですのでご協力ください。常用薬などは、調剤薬局などでもらえる薬の使用解説用紙を持ってきていただくと非常に助かります。

歯科麻酔科は、患者さんの安全と安心を確保する診療科です。歯科治療を受けたくても躊躇している方はいらっしゃいませんか？一度、歯科麻酔科にご相談ください。良い方法が見つかるかもしれません。

(医局長 永尾 康)



栄養科 紹介

歯科病院に栄養科なんて在るの？と思われる方もおられるでしょうが、実はこの病院にもあります。外来で治療にこられる方の中には、病棟があつて入院患者さんがいらっしゃることを知らない患者さんも多いのではないのでしょうか。

主な業務は献立作成・食材の発注・調理業務などや患者様の栄養管理など食事全般にわたっておこなっています。歯科病院での基本的な食事は、一般常食・キザミ食・ソフト食・経口ミキサー食・経管ミキサー食などですが、殆どの患者様は一般常食の食事は入院した日に2回食べるだけで、次の日からはきざみ食のように刻まれたりミキサーにかかった状態になったりと、食事の形態ががらっと変化します。

歯科医師が状態に応じて、いちばんベストの食事形態を選択して患者様に提供されています。ミキサー食のように水分の多い食事はエネルギーやたんぱく質など全体的に栄養が下がってしまいがちです。そのような時には、栄養をギュッと凝縮した流動剤などを使用して栄養を確保しています。キャラメルを液状にしたような味と食感なので最初は抵抗が有るかたもいらっしゃるようですが飲み慣れてくればさほど気にならなくなります。他にも色々な流動剤があり用途によって使い分けられています。たんぱく質は手術後

の回復に非常に重要ですので食事をできるだけ取るように心がけていただければ幸いです。

食事は見た目で美味しさが左右されてしまいがちです。当然刻まれたり、ミキサーをかけられてしまうことで、形が無くなってしまい美味しさが目からは伝わらなくなります。そればかりか、色々なおいが混ざり合ってしまう美味しさが伝わらなくなることもあります。患者様に目や鼻から感じて貰うために調理室前に元の状態の食事を展示して、どんな食品がどの様に調理されているか確認出来るようにしています。ぜひ食べる前に展示してある食事をご覧になってください。もう少し美味しく召し上がれるかもしれません。(^^)

患者様と栄養士・調理師が顔を合わせる機会は少ないと思いますが、お食事に対しての質問など有りましたら遠慮なくお声がけください。食事相談などもおこなっていますのでお申し出ください。

(主任 鴨志田 聡)



一般食



ソフト食

口の中の病気と言えば、虫歯や歯周病を思いつかれるかも知れませんが、その他にも様々な病気があります。例えば、歯の生える土台である顎(あご)の骨にも様々な病気が発生します。これらの病気は、いくら口の中を見ても、目で見ることは出来ず、大きくなるまで患者さん自身が症状を感じにくく、かなり大きくなってからレントゲン検査などで発見されることが多いのが現状です。その代表的なものとして、嚢胞(のうほう:顎の中にできる袋)や良性の腫瘍(できもの)が挙げられます。原因は様々ですが、そのままにしておくと徐々に大きくなるため、ほとんどの場合にそれらの病変を取り除く手術が必要となります。この時に、顎の骨を削る必要が出てきます。

従来の手術方法では、病変を取り除くために骨を削る場合に、周りの粘膜や神経などの軟らかい組織を傷つけてしまう可能性がありました。骨を包んでいる膜(骨膜)を傷つけると、骨の治りが悪くなり、神経を傷つけてしまうと麻痺が出たりします。とくに、下あごの骨の中を走る下歯槽神経血管束(かしそうしんけいけっかんそく)と呼ばれる太い神経と血管と顎の病変が近接していたり、あるいは引っ付いていたりしている場合には、手術の後に下の口唇からあごの先にかけての感覚が鈍いなどの神経障害が残ることがありました。さらに、上あごの骨では、上顎洞(じょうがくどう)と呼ばれる空洞が存在しており、従来の骨を削る機器では、その内面にある薄い上顎洞粘膜(または、シュナイダー膜)を傷つけることで、鼻と口の境がなくなることもありました。

昭和大学歯科病院口腔外科では、骨を削る機械として従来のエンジンで金属製の切削バーを回転させるタイプに加え、超音波で骨を削るタイプのもを新しく導入しました。この超音波骨切削機器では、周囲の神経や血管を全く傷つけることなく骨を削ることができ、その治り方も非常に良いことがわかっています。さらに、キャビテーション効果といって超音波の泡により止血ができ、手術による出血も最小限に抑えられます。

現在、同じ手術が「治すために侵襲ある手術」から「低侵襲の患者さんにやさしい手術」へと変わりつ

つあります。昭和大学歯科病院口腔外科では、患者さんにやさしい低侵襲手術を超音波骨切削機器の応用と内視鏡による支援手術で実現しています。

超音波骨切削機器と内視鏡を併用することで、今まで病変の摘出に伴い、抜歯を余儀なくされてきた歯は、病変に含まれる部分の歯根だけを削るだけで抜かなくてもよく、保存できる可能性が高くなっています。

また、手術後の腫れや痛みも少なく、早期退院し、機能障害もなく社会復帰が望めるようになっています。

このように、昭和大学歯科病院口腔外科では最新機器を使用し、患者さんの手術後の身体的負担や痛みを軽減し、短期間での退院が可能となるように心がけています。



写真:超音波骨切削器



写真:超音波骨切削器による骨切除、ほとんど出血がない。

健口フェスティバルについて

去る7月10日、第3回健口フェスティバルを開催しました。昨年度に引き続き、公開講座・健口体操・院内コンサート・健康相談・技工体験・模擬店を行いました。反省点や改善点もたくさんありますが、当院の全部署の皆さんに協力をいただき、無事に終了してひと安心しました。

なお、模擬店の収益金(57,950円)については、大田区の福祉関係に寄付させていただきました。

(管理課)



環境美化活動について

当院では、環境美化活動の一環として、病院周辺の草刈り、正面玄関にある花壇の花植えを実施しました。ごみ袋で約6袋の草木を收拾し、長年整備していなかった花壇の土の改良のために肥料を混ぜ込んだり、肥やしたり…と真夏の強い日差しのもとで汗を流しながら作業を行いました。

(管理課)



編集後記

暑い、暑い、暑い八月です。3連投などの甲子園球児は異星人に思えます。ヒートアイランド現象、異常気象、猛暑日、真夏日など名称はどれも良いですけど、とにかく暑いですね。。。クールビズ万歳！！

ところでクールビズという単語は和製英語で、涼しい、格好良い、賢いなどで米国人が良く使うクール(cool)とビジネス(business)の省略形のbiz(正式な英語)を合成した語ですが、英語圏内ではまだ認知されていないようです。ただ地球規模で温暖化が進む現在、cool bizも近い将来、英語圏に逆輸入されるかもしれませんね。(例えば、ホームステイhomestayも和製英語の逆輸入だそうです。)皆様、八月末ですが、熱中症、夏バテにくれぐれもご注意ください。

(K.T)

